

第 110 回 BA エグゼクティブサロン(2 月 16 日開催)卓話概要

<テーマ>

「Hospital in the Home—4K テレビと通信の融合が創る D to P の新しい形」

<講師>

松本純夫氏(独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 名誉院長、
内閣官房 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 新戦略推進専門調査会委員)

『略歴』

昭和 41 年 3 月 慶應義塾大学 医学部卒業
昭和 53 年 5 月 慶應義塾大学医学部助手(外科学教室)
昭和 57 年 8 月 名古屋保健衛生大学医学部外科講師
平成 5 年 4 月 藤田保健衛生大学医学部外科教授
平成12年 2月 藤田保健衛生大学第二教育病院・坂文種報徳会病院 病院長
平成17年 4月 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 病院長
平成26年 4月 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 名誉院長

『教職歴』

平成 17 年 7 月～ 慶應義塾大学医学部客員教授(外科学)
平成 19 年 4 月～ 藤田保健衛生大学医学部客員教授
平成26年4月～ 東京医療保健大学学事顧問・看護大学院教授

『公職歴』

平成 16 年 11 月～平成 26 年 11 月 厚生労働省 保健医療専門審査委員
平成 22 年 10 月～ 日本病院会倫理委員会委員長
平成25年10月～ 内閣官房 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 新戦略推進専門
調査会委員
平成26年11月～ 内閣官房 政府調達苦情処理検討委員会専門委員
平成27年 4月～ 内閣官房 次世代ICT基盤協議会委員

<卓話概要>

デジタル技術の進歩による通信環境の変化は対面診療を原則とする医療の世界にも目に見える形で変化を及ぼそうとしている。医療法人社団健育会が秋に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス隣接地に開設を予定している湘南慶育病院は、通常診療に加えて慶應義塾大学との共同利用研究室を内包し、さまざまな企を計画中である。

その一つが自宅のテレビを利用した遠隔対面診療である。予約時間になれば自宅の画面の一区画に医師や看護師が映し出され、患者や家族と双方向に話が可能になる環境を創る予定である。病院に行かなくても家庭に置かれた4K テレビの前に診察室が作られることになる。バイタルサイン等の測定機器からの情報が病院側へ伝送されれば診察の精度が高まることは当然である。当初は家庭に設置された4K テレビで試行予定であるが、当然のごとく多忙とか様々な理由で病院を受信できない人たちも対象に加わることを想定している。

(以上)